

医療従事者向けの中国語講座開講式で受講証を受け取る看護学生＝7月31日、豊見城中央病院



医療現場に中国語を 豊見城で講座開講

【豊見城】豊見城市の補助金を活用した「中国語講座」の開講式が7月31日、豊見城中央病院で開かれた。外国人観光客増加に伴う、医療機関の受け入れ体制の整備が目的。医療に従事する社会人や学生15人が受講する。豊見城中央病院が企画提案し、市観光資源・医療資源活用事業として県内で初めて取り組む。事業本部長の城間寛南部病院院長は「沖縄は観光立県を掲げており、医療の側面からのサポートが不可欠だ。外国人がけがや病気で受診するケースが増えており、言葉の面で困らないよう、市と共に取

県内初、15人受講

り組んでいきたい」と述べた。受講生を代表し、那覇看護専門学校座安貴子さん(20)が「安心安全な医療を迅速に提供できるように、語学習得に取り組みたい」、豊見城中央病院で勤務する小杉卓大さん(32)は「医療ツーリズムの実現に貢献したい」と述べた。講座は8月から来年1月までの約半年間で、授業は週2日の6時間程度。基礎表現から学習し、医療現場の実践を想定した会話のやりとりなどを学ぶ。事務局は同病院に置き、講師はSORAアカデミーサポートの城間宇恵さんが務める。